「ばけばけ」にハマって滝山神社に行ってみました。

日野病院名誉病院長　井　上　幸　次

この半年、恥ずかしながらNHKでやっていた「ばけばけ」という連ドラにハマってしまいました。そもそもテレビドラマはあまり見ませんが（朝の連ドラを見るのはひょっとしてはじめて？）、今回は松江を舞台にしているのと、東洋と西洋が混ざったりぶつかったりするものが好きという個人的好み（オペラの「蝶々夫人」とか映画の「戦場にかける橋」とか）から見始めたのですが、なかなか面白く多くの気づきもありました。それで主人公のモデルになったラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の「怪談」と「骨董」を読んでみました。

小泉八雲というと「耳なし芳一」や「雪女」などの「怪談」が有名すぎて、何となく怖い話を書く人と思われているような感じですが、実際に読んでみると「怖い」というよりは「哀しい」という感じが強く、一方でユーモラスな所や繊細な所があって、日本が好きだったラフカディオ・ハーンは日本人よりも日本の「あはれ」や「をかし」という美意識がわかっていたように思いました。小泉八雲が松江にいたのはわずか一年半ほどということでしたが、そこには八雲の感性に訴える古い日本の文化が根付いており、それが日本永住につながったように思われます。もし、最初に来た場所が熊本や東京だったら、そのまま日本を離れてしまったでしょう。そういう文化を持っている松江や出雲を羨ましく思う一方で、鳥取県はその辺は及ばないなあ、とも思いました。

ただ、「骨董」の中に「幽霊滝の伝説」という短篇があって、これが実は日野町と関係があることを知りました。「伯耆の国、黒坂村の近くに、幽霊滝という滝がある。」という書き出しではじまります。「滝壺のほとりに、氏神をまつった小さな祠があって、（中略）祠の前には、木造の小さな賽銭箱がそなえてある。この賽銭箱についてある一条の物語がある（平井呈一訳）」というわけで、先ほど「怖い」話ではあまりないと書きましたが、これはまさに「怖い」話でした（内容が病院の広報には合わないので敢えてこれ以上書きませんが）。日野病院に勤め出して４年にもなるのに、私は小泉八雲ゆかりの地が日野にあることを知らなかったので、これには驚いて、実は先日、そこに行ってみることにしました。

図１

図２

図３

図４

まったく何も知らなかったので、「滝山神社」とナビに打ち込んで車で行った所、何もない橋の上で「着きました」と言われて困惑しましたが、車で一番近いならそこということで、あとは跳び下りろと言うことだったようです。実はナビに打ち込むべきは「滝山公園」で、そこの駐車場に車を止めて、そこから「滝山神社」と「龍王滝」の所に徒歩で上がっていくのが正しいルートということがようやくわかって何とか行きつけました。つつじや紅葉の季節ではなかったので、閑散としていましたが、それがかえってよくて、山深くへ分け入ってゆく感じがありました。途中にある狛犬も苔むしていて（図１）、なかなか風情がありましたし、瀧も雪解け水のおかげかそこそこ水量があり（図２）、その前にはちゃんと八雲の「幽霊滝の伝説」のことを記したボードがありました（図３）。古いながら、しっかりとした造りの御社が回りの景色と調和しているように思われ（図４）、そしてきちんとお賽銭をあげて祈りを捧げてきました。「幽霊滝の伝説」は怖い話ではありますが、その奥には、自然や祖先に対する信仰への素朴なリスペクトがあり、それを蔑ろにするがゆえに怖いということなんだろうなと思います。

松江や出雲のような洗練された文化ではないけれど、山陰の地には、八雲の心に響き、今の日本や世界で失われつつあるかもしれない情緒がまだ残っていることを気づかされた体験でした。